

(様式第9号)

高槻市立第四中学校区 学校運営協議会 会議録

令和7年5月30日作成

会議の名称	令和7年度 第1回第四中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和7年5月30日 (金) 18:00 ~ 19:30		
会議の開催場所	高槻市立赤大路小学校 多目的室	公開の可否	可
担当課	教育指導課 教育総務課	傍聴者数	4人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)	会長、副会長の選出、要綱および要領の確認 (高槻市審議会等の会議の公開に関する指針第5項による)		
出席委員	赤木 瑞枝 東 平八郎 岡本 工介 橘川 美恵子 吉良 摩美 新谷 龍太郎 廣川 靖子 福井 勇		
学校出席者	(第四中)岡田 由紀 畑 智貴 竹屋 俊祐 山口 千恵 錢谷 恭兵 川上 典子 (富田小)下西 靖志 片山 和人 山田 裕太 正木 恵 (赤大路小)栗原 綾 和田 博之 難波 美津江 森 真智子		
会議の議題	1. (承認第1号)会長・副会長の選出 2. (議案第1号)会議の公開に関する要綱・傍聴要領について 3. (報告第1号)学校運営協議会の役割と地域学校協働活動推進員(推進員)について 4. (承認第2号)第四中学校区グランドデザインについて 5. (説明)第2回の予定		
配付資料	資料1 第四中学校区学校運営協議会 委員一覧 資料2 第四中学校運営協議会 委員座席表 資料3 高槻市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則 資料4 第四中学校区学校運営協議会の会議の公開に関する要綱(案) 資料5 第四中学校区学校運営協議会傍聴要領(案) 資料6 地域学校協働活動推進員の委嘱等に関する要綱 資料7 高槻の目指す学校運営協議会制度 資料8 令和7年度 第四中学校区グランドデザイン(案)		
審議等の内容	・学校運営に関する基本的な方針の説明と協議及び承認		

(別紙)

令和7年度 第1回 高槻市立第四中学校区 学校運営協議会 会議録

議事日程

1. 会長・副会長の選出
2. (議案第1号)会議の公開に関する要綱・傍聴要領について
3. (報告)学校運営協議会の役割と地域学校協働活動推進員(推進員)について
4. (議案第2号)第四中学校区グランドデザインについて
5. (その他)第2回の予定

(18時00分開会)

※議案1号までは、会議の公開に関する要綱が可決前のため、議事録は非公開といたします。

会長

それでは、これ以降につきましては、公開といたします。本日の会議の傍聴希望者はいらっしゃいますか。

学校

4名いらっしゃいます。

会長

希望者が4名おられるということです。傍聴を許可します。

次に 次第5 「学校運営協議会の役割と地域学校協働活動推進員について」です。

学校より説明をお願いします。

学校

資料7をご覧ください。資料7表面をご覧くださいながら、コミュニティ・スクールについて説明いたします。

高槻市では、「人や社会とつながり、学び続け、よりよい自分と社会を創る子ども」を教育の目標として掲げています。この目標の実現に向け、平成28年度から小中一貫教育を推進

し、その枠組みを活かして中学校区ごとに学校運営協議会を設置しています。このような学校を「コミュニティ・スクール」と呼びます。

学校運営協議会の役割として、まず1点目は、校長が示す学校運営に関する基本的な方針を委員が合議により承認します。この基本方針は、資料の最後につけております「中学校区グランドデザイン」として示され、「めざす子ども像」「中期的な経営ビジョン（おおよそ3年）」「今年度の教育目標と重点取組」が含まれます。校長はそれらについて説明し、委員は意見を述べて協議を深め、方針の承認を行います。

2点目は、方針の実現に向け、どのような地域の支援が必要かを話し合い、具体的な支援活動へとつなげていくのも協議会の重要な役割です。地域・家庭・学校がそれぞれの役割を果たしながら連携することが求められています。

次に、組織構成と推進委員について説明いたします。協議会の委員には、保護者や地域住民、学識経験者のほか、「学校協働活動推進員」が1名含まれます。以降「推進員」と呼びます。推進員は、協議会で話し合われた内容を具体的な活動に落とし込み、学校と地域との間を調整する役割を担っています。

たとえば、出前授業、授業支援、放課後学習、部活動、防災訓練、校外学習時の見守り、校庭整備や清掃活動など、学校から地域の力が必要とされる場面で、推進員が適切な人材を地域から見つけ、学校との調整を行います。

第四中学校区では、岡本 工介 様が推進員として校長の推薦を受け、高槻市教育委員会より正式に委嘱されています。推進員についての詳細は、資料6の要綱をご覧ください。

資料7裏面にも示されている通り、こうした地域の人材による協力活動を「地域学校協働活動」と呼び、協力してくださる方々を「学校教育活動サポーター」と位置付けています。現在、第四中学校区では、それぞれの学校にサポーターの登録があり、すでに多くの方にご協力いただいています。今後は、これらを統合・整理し、より連携のとれた仕組みにしていきたいと思っています。

岡本様には、サポーターの募集や調整など、地域と学校をつなぐコーディネートをお願いしてまいります。

このように、地域の力を学校教育に活かし、地域とともに子どもたちを育てるというコミュニティ・スクールの理念を、実際の形にしていくために、推進員および運営委員の皆さまやサポーターの皆さまのお力をぜひお借りしたいと考えております。

資料7表面にありますように、学校運営協議会は、年3回の開催が予定されています。第1

回は学校運営方針の説明と承認、第2回は取組の進捗状況報告と協議、第3回は学校自己評価と学校関係者評価、そして次年度に向けた協議を行います。委員の皆さまには、積極的にご意見をいただき、共に子どもたちのよりよい学びと育ちを支えていければと思います。

会長

学校から説明がありましたが、委員の皆様、何かご意見やご質問等ございますでしょうか。

委員

学校運営協議会においては、学校の方針の承認だけでなく、教育課程についても協議する必要があると考えます。しかしながら、高槻市には現時点で教育課程に関する議論を行う規定がありません。この点についても、今後検討が必要です。また、地域活動推進員に関して、文部科学省では「社会教育士」という資格を整備しています。今後、学校と社会をつなぐ役割として、この資格の活用についても検討していく必要があると考えます。

以上、意見として申し上げました。

会長

ありがとうございました。

続きまして、議案2 第四中学校区グランドデザインについて、学校より説明をお願いします。

学校

校区の経営方針について説明いたします。

上段には、高槻市のめざす社会像、めざす子ども像があります。市の方針のもと、第四中学校区のめざす子ども像を「今の課題に向き合い、未来をよりよく生きる子ども」（サブタイトルとして）今と未来を生き抜く「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな心身」としています。その背景としての校区の実態について説明いたします。

まず、児童生徒についてです。

子どもたちのいわゆる「学力」といわれる状況は、昨年度の全国学力・学習状況調査の結果では、3校とも全教科で全国の平均正答率は上回っていますが、低位層と高位層の2極化が見られる部分があります。また学力の大事な要素である「学ぶ意欲」に関連して、日常の学習の様子から、主体性や積極性が低い傾向が見られます。意識面に関して、昨年、小中学校共通で実施したアンケートがあります。その結果では、「学校に行くのは楽しい」「自分の学校は好きだ」といった項目について、肯定的な回答が80%を超えており、多くの子どもた

ちが学校生活に前向きな気持ちを持っていることがわかりました。一方で、「自分が好きだ」と答えた、いわゆる「自尊感情」に関する項目では、肯定的な回答が 70%にとどまっており、決して高いとは言えない状況にありました。

教職員集団としては、教育課題の多様化・複雑化が進む中、授業研究を深める取り組みは業務改善を行いながら進めている状況です。また、本来の業務である授業づくりについての研究をしっかりと行いたいと考えている教員は多いと感じています。一方、平成 22 年度に四中校区で取り組んだ文科省の教育課程の研究における「いまとみらい」科は、子どもの発達段階や

状況に応じて内容を吟味して実施していますが、一部形骸化していると感じられます。

地域や家庭の状況は、本校区は学校に対してとても協力的な姿勢が見られます。家庭では、多様化する子育ての価値観に悩みながらも、学校と連携しながら子育てを進めておられると感じています。また、地域ごとの行事等も定着しており、地域のため、そして子どもたちのために、これまでの経験を生かしながら、それぞれの目的をもって運営されています。一方で、全国的にもみられるような経済的・文化的格差や、地域の構成員の高齢化・継承者不足といった課題は、本校区も例外ではありません。

これらの背景から、「育みたい 4 つの力(社会参画力)をつけるために「今の課題に向き合い、未来をよりよく生きる子どもの育成」を教育目標とし、取り組んでいきたいと思っています。

中期的な経営ビジョンとしては、「教育課程の再整理と質的改善」「教職員の資質向上」「地域連携のさらなる推進」の3点を掲げています。3 点目の「地域連携のさらなる推進」の項目はこれまでも取り組んできた内容ですが、「『自分のまちが好き』といえる子どもの育成」と「子どもの学びを支える地域力の活用」の文言は、今年1月に地域・保護者・四中校区に関係してくださっている学校・園・所や学識経験の方々に集まっていたいただいた熟議において交流された意見を参考に追加した項目です。

そこで、今年度、重点的に取り組む内容としては、「資質・能力の向上につながる人権教育の実現」とし、以下に3つの視点から取り組みの骨子をあげております。

1 点目、授業改善の観点から研究主題を「子ども一人ひとりを大切にする授業づくり」とし、「学ぶ意欲を高める工夫」について6つの切り口からアプローチする授業を研究します。これは、昨年度から研究テーマを継承していますので、参考として昨年度作成した折込のパンフレットをご用意していますので、またご覧ください。今年度も継続して研究を深め

ていきたいと考えております。

2 点目、生活科・総合的な学習の時間「いまとみらい」The 2ndについてです。前半でもお話ししましたように、本校区は過去に文科省の研究指定を受けた経緯があり、その際に開発されたのが「いまとみらい」です。この学習は、今も大切に受け継がれている部分がある一方で、形骸化していると感じられる部分も見受けられます。そこで今後は、学習指導要領に示された目標や、他教科との関連を踏まえつつ、本校区ならではの題材や人材の再開発なども行い、改めて「いまとみらい」の内容を整理していきたいと考えています。

3 点目、安全教育の推進についてです。どのような教育活動を進めるうえでも、まずは子どもたちが安全で安心な学校生活を送ることが前提となります。そのためには、全ての児童生徒が自ら適切に判断し、主体的に行動できる力を身につけることができるよう、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの分野を柱として、安全に関する資質・能力を育ててまいります。

以上、はなはだ簡単に説明させていただきましたが、これらの方針を、第四中学校区で連携して取り組んでいきたいと考えております。委員の皆様におかれましてはご承認賜りますようよろしくお願いいたします。

会長

学校から説明がありましたが、委員の皆様、何かご意見やご質問等ございますでしょうか。

委員

私から委員の皆様へ質問です。私は、これまで「いまとみらい（総合的な学習の時間）（以下『いまみ』とする場合もある）のカリキュラム編成に関わってきました。地域の皆様は、学校のことを知る機会があったのでしょうか。

委員

関わったことはない。関わりたいと思っているが、どんな関わり方が良いか、こういう場で検討していきたい。

委員

赤小の「いまみ」では保護者がこれまでも学校に関わることもあり、保護者としてうれしく思っている。授業などで必要な時には声をかけてもらわないとなかなか参加できないのが実情です。

2年前、子どもたちから「トイレが汚いのできれいにしたいのですが、自分たちだけでは

難しいので、保護者のみなさん、てつだってください。」と言われ、授業内で一緒に清掃活動を行った。とてもありがたい取組だった。今年も同様の機会があれば関わりたい。

参加することで先生方の授業への思いが、授業参観以上に伝わってきた。一保護者として、今後も学校に関わっていきたい。

委員

本園は、富田保育所・幼稚園が土台にあり、社会福祉協議会が設立しました。今年度は、「つなぬく（校区連携会議のこと）」で、連携している。

委員

支援学校は「つなぬく」に入っているのですか。

委員

今年は「つなぬく」と関わっていくことを考えています。

会長

いまとみらいが、形骸化しているということだが、今後、どんなふうに活性化していきますか。

学校

「いまみ」の取組で施設等に聞き取りを行っているが、地域と関わるのが当たり前になっており、協力いただく地域の関係者の皆様と目的がきちんと共有できているか心配な時がある。また、昨年度取り組んだからと行うのではなく、本来は子どもの気づきを起点に取り組みを進めたいと考えている。今後も子どもたちへのアプローチの工夫が必要である。出前授業なども行っているが、地域にはまだ学校が知らない多くのプロフェッショナルがいるはずで、現在の聞き取り以上のことができると思っている。委員の皆様からの情報をいただいて人材の開発・発掘を進め、教育の質をさらに高めていきたい。

委員

北日吉台小学校の熟議では、職業体験に協力可能な人のリスト作成を求める意見が学校からあった。門真市では、探究授業にコーディネーターを配置し、教職員の負担軽減につなげ

ている。週1回、推進委員が常駐しており、地域のOBとのつながりを活かしてカリキュラムが形成されている。探究的な学びにおいては、コミュニティ・スクール（CS）の枠組みが活用できる。

委員

学校と保護者、地域について、つながり方に温度差を感じる。われわれも学校と関わっていききたいので、関わり方の好事例があれば教えてほしい。

会長

貴重な意見をありがとうございます

他にございませんか。意見は出尽くしたようですので、議案について、賛成の方は挙手願います。

【委員全員 挙手】

会長

ありがとうございます。賛成多数により、議案2については、承認されました。

予定の案件はすべて終了しましたが、委員の皆様から何か意見などいただいて情報交流できればと思いますがいかがですか。

副会長

富田で以前、職業体験『とんだわっか』を行っていた。主に飲食店を中心に様々な職業の方に協力してもらって実施していたが、コロナの影響で継続が困難になった。以前は抽選で1日3か所を体験し、50～70人の参加があった。子どもたちは大人の仕事に意欲的に取り組んでおり、7年間行った。こうした機会がもっと増えることを願っている。

学校にもポスターを掲示してもらっていたが、先生方もボランティアとして参加いただけるとうれしい。自分の仕事を子どもに伝えたいという地域の大人は多く、子どもたちの感想でも「このような機会をもっと増やしてほしい」との声があった。先生方にもプライベートでの参加をお願いしたい。

会長

情報をつなぐ役割が大切だと感じている。支援学校でも地域とのつながりを大切にしており、赤大路コミュニティセンターの文化祭に出展したことで、地域に「こんなに上手な方がいる」と気づかされた。専門的に活動されている方の存在を知り、実際に足を運んで実感できた。

例えば、地域の方の絵手紙作品に対し、専門家の意見をいただけるような場があれば、子どもたちの活動も深まる。地域とのつながりで情報交流し、活動を広げられると考えている。

委員

PTAに関わるまで、地域のお祭りやおもちつきの主催者が誰かを知らなかった。保護者の中には、地域で行われている活動を知らない人も多くいただろうが、実は知りたいと思っている。手伝いたくても、誰に聞けばよいか分からないこともあるので、そうした橋渡し役を担いたい。

また、保護者として、子どもたちの授業において子どもたちのためになにかできることがあるのであれば教えてもらいたい。教育に関しては素人である保護者の目から見ると、「グランドデザイン」は難しく感じる。会に参加することで理解が深まったが、参加していない人にも伝わるような、チラシなど目を引く形での情報発信があると、より多くの大人が主体的に関われるのではないかと感じている。素人だからこそ、見えづらい部分に気づけることもある。

委員

富自連（自治会）だよりでは、行事や活動実績を報告しており、文化祭についても公平性を重視し、すべての作品を掲載している。活動内容を分かりやすく伝えるために、富田小から記事を提供してもらい、地域の掲示板に掲示するなど情報発信を行っている。

委員

学校とPTAのつながりについて、今後どのような協働的な活動を行っていくかが課題である。先日の放送でPTA活動の報告があったが、現在は「自分の都合の良いときに参加する」といった関わり方が多く、PTAの加入率も低下していると聞く。今後は学校・PTA・地域が連

携し、加入率の向上を図りながら協働を進めていく必要があると感じている。

学校・地域・PTAが一体となる「トライアングル」の関係づくりが重要である。

学校

PTAは「保護者」という大きな枠組みの中の一組織として捉えている。PTA組織との連携も大切にしたいが、組織に加入しているかどうかに関わらず、保護者・地域・学校が一体となった大きな枠組みで連携していくことが重要である。

地域にもさまざまな組織があり、そこに所属している人もいれば、そうでない人もいる。委員の皆様それぞれのネットワークを活用し、学校のニーズを伝えてほしい。それぞれの皆様と学校がどのように関わっていくかが大切である。

委員

登下校の見守りは現在、高齢者が中心となっている。少子高齢化の中で「人がいないからやっている」という現実があり、体力的に難しい方も増えている。青少年指導員も不足しており、ようやく1名確保できた状況で、地域の担い手不足を深刻に感じている。

PTAに対しては「関心がない」という印象を持たれることもあり、挨拶を交わさず素通りしてしまう場面も見られる。高齢者・PTA・地域が「WIN-WIN」の関係になるために、どう連携していくかが課題である。今後、青少年指導員への依頼も含め、山あり谷ありの状況の中で、協力体制を模索していきたい。

委員

富田地区でも同様に、地域活動の主力は80代。70代は少なく、世代間のギャップがある。病気等で離脱する人も多く、穴埋めが難しいのが現状であり、活動の継続に課題を感じている。

委員

高齢者ばかりでなく、児童生徒の保護者世代が、もっと言えば、その間の層の方々がどうすれば地域の活動に参加していけるのか悩ましい。

学校

コミュニティ・スクール（CS）の目的は、学校の経営方針に基づき、子どもたちの教育を充実させることにある。前任校では、ボランティアとして登録していただいた地域の方が「CSで何かするなら協力します」と申し出てくれ、保護者と年配者がつながり、地域行事にも一緒に参加するようになった。

学校教育の充実が第一の目的だが、CSの取組を通して地域同士のつながりが生まれ、年代間ギャップも埋まり、地域の活性化にもつながっていることを実感した。コミュニティ・スクールの効果は一足飛びではないが、できることをできる人が活動することで、学校が地域の核となって地域の活性化に貢献できればと考えている。

会長

その他、何かございますでしょうか。特にないようでしたら、学校から、お願いします。

学校

次回の連絡をさせていただきます。第2回学校運営協議会は、11月上旬の平日18時を考えております。2ヶ月前に、その日程の調整・連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

（学校長より謝辞）

会長より終了宣言